

きょうと福祉倶楽部だより

2023年 第5号

ヘルパー奮闘記

認知症訪問介護

ヘルパーN

1 最初の訪問日

○さん（92歳、男性、要介護2）は、奥さん88歳、65歳の娘さんと三人暮らしです。

担当のケアマネと一緒に面接に伺いました。門構えも立派な大きなお家です。

家の前にくると、外にまで聞こえる程の女性の怒鳴り声が聞こえてきました。

…ケアマネと顔を見合せていると、近所の方が出て来られ、「いつものことだと言います。そのときも娘さんが年老いた母親を「なにやってるの!!」「早くしなさい!」と怒鳴っています。

昔からのようですが、最近はひどくなっている様子です。

このお家の、お父さんの介護の相談で訪問することとなったのですが、問題は山積みの予感がしてきます。

インターフォンを押し待っていると、イライラした様子で娘さんが出てきました。でも私たちの顔を見ると、慌てて表情を変えてにこやかに対応します。

そして、認知症のお父さんの元へ娘さんが案内してくれたのですが…

なにか様子がおかしい。要介護2のお年寄りですから1階の部屋などにおられると思いきや、お部屋は2階です。

らせん状の階段を上がり、2階への階段も踊り場はほこりだらけ、居室の床の足元には食品が散乱し、ポータブルトイレに鋭い眼光の○さんが杖を持って座っています…。

少いうつむき加減の○さんが顔をあげ娘さんの姿を見ると、開口一番「この女は悪いやつじゃ!」「どっか行け!」と大きな声。杖を振りあげ怒鳴り散らします。

下着のようなよれたシャツは白いはずですが、黄ばんでよごれています。ところどころ血痕のすれたような跡もあります。下半身はリハビリパンツ1枚の姿で※バルーンをぶら下げていらっしゃいます。

「○さん、こんにちは」などと話しかけても、全くこちらの話は聞いてもらえず、難しい表情で怒りモードです。

そこに輪をかけて娘さんの金切り声。「この人どうにかしてください!」と…また娘はイライラモードにまた豹変。

とにかく、本人の部屋も汚く…私たちはあっけにとられました。

ケア会議では、人の介入が無いと、どんな状態で生活されているのかも見当もつかないと言うことで、訪問看護、訪問介護とデイサービス週2回。※セルフネグレクトとして、包括へも報告し、※区分変更もお願いしました。

今後はとりあえず訪問して支援の仕方を検討することになりました。が、娘さんは毎日の訪問は迷惑だと拒否します。仕方なく訪問介護はデイサービスの日だけ朝と夕方訪問することとなりました。

…次号へつづく

※バルーン→カテーテルと呼ばれる管を、尿道から膀胱まで通して、入れっぱなしに。尿はそのカテーテルの中を通過して、蓄尿袋に溜まります。
※セルフネグレクト→何らかの事由によって、普通の生活を維持するために必要なさまざまなことを行う意欲や能力を失ってしまい、自身（セルフ）の健全な生活や身の回りの安全を損なってしまうこと、そこに至るまでの行為のこと

※区分変更→要介護認定を受けた後に本人の状態が変化し、これまでの要介護度では支障が出てしまう場合に、次の更新を待たずに改めて認定調査を行うもの